
音描写物語

ぬじゃわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音描写物語

【コード】

N7815M

【作者名】

ぬじゃわきし

【あらすじ】

とにかくひたすら擬音語とセリフ、すなわち音のみで描写した話。どういうストーリーかは読んで考えよう！

ぶうううん、ぶううん、がやがやがやがや、ぶうううん、だっだ
っだっだ、ぐおおんぐおおん。「・・・だよねえ、明日何見に行く
?」「明日?」オツティ・プレインの華麗なる一日『って映画は?」
「いいねえ・・・」「・・・あ、もしもし、先週はすいませんでし
た。いやーね。もう、しょうもないミスして。ほんと」「だいたい
さあ、雪車^{せうまわ}町のやつ、仕事はテキストな癖に」「今日のランチはど
こにする?」「それでもねえ、うん。やっぱり彼のほうが悪いと思う。
・・・」「・・・いらっしやいませーいかがですかあ・・・」「・・・
・・・カメラ・・・カメラ・・・」「・・・」
私の運命を嘆く

ガチャッ

「・・・、どうして、こうなるの?」

「お、来ましたね。お掛けください」

ザサッ、ズー」「嗚呼、私はどうせ」

「で、どうです?例の『黒魔術団』は。」
「そうですねあ・・・なにせ証拠がないから、逮捕できないんだよ
ねえ。」

ブンチャカブンチャツ、ズチャツチャズンチャ

「・・・証拠はともかく、一人、キーパーソンを発見しました。」
「何かな？」

「相田、古見郎。『黒魔術団』を止めた男です。これからこちらに
来ます」

「なに？もつと早く言え！」

「いえ、連絡着いたのがついさっきで・・・」

ガチャツ

「あ、来ました。」

「こんばんは、相田古見郎です。」

「まあまあ、お掛けなさい。」

ザザ、ズー

「お待たせしました、ペペロンチーノとワインでございます。」

コトリ、コトリ

「ありがとうございます」

「で？相田さんといいましたな？単刀直入に申し上げるが、『黒魔術団』はアジトはあるのかね？」

「・・・あります。」

「ほんとうか？」

「はい・・・じつは・・・」

「何かね？」

「ここです・・・」

「!？」

ザツザツ

「そうさ、お前が黒魔術団を狙っていたからハメたのさ。」

「伊綱!!お前まで!!」

「はっはっは、覚悟しろ!!」

「……………」

ザッ

「どうした、降参か？」

「……………ワタシがカンフーの達人ってことを知っていたか？」

「は？うそつけ！だあああ！！！」

ビシッ、バシッ、ドカツ、ドンドン、ゴガッ、「ぬあああ」「あああ！畜生！きええええええ」ドスドス、ズガ、ドンガラガッシヤン、ポーン、ズゴ、ドガドガ、「おぬしナカナカ手ごわいな」「ドゴランシヤン、ズゴ、ズドドドド」「うわっ」

ガチャ

「ふははははは、おぬしなかなか強いな。」

「何ヤツ！」

「黒魔術団団長、黒魔・術男だ。おれの魔術を試してみろ！！！」

どろどろどろ、ずーん、ぼよーん、しゅおしゅおしゅお、ぎろべろずどろどろどろ「キシヤー！」「ビシ」あうっ」

「……………弱いな、黒魔術団長、残念ながら公務執行妨害で逮捕させてもらつよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7815m/>

音描写物語

2010年10月19日22時14分発行